



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三四号〕

せいめい
清明

四月四日

二つの宿り木桜

春四月、コロナ禍であっても、桜が咲くと眺めているだけで気持ちも華やきます。伊勢にかつて知られた桜がありました。江戸時代の国学者、もとおりのりなが本居宣長が「来てみよ杉に桜の花咲きて 神世もきかぬ 神垣の春」と歌に詠んだ宿り木桜です。高さ二十八メートルの老杉の八メートルほどのほら洞に寄生した山桜です。

この桜は「宿り木の桜」として伊勢市天然記念物でしたが、このたび指定解除となりました。今から二十数年前、伊勢神宮内宮の宮域内にあるこの桜を私は特別に取材させてもらったことがあります。小雨の降る中、白い花を咲かせる宿り木桜、あたりは雨の音がするだけで、厳かな花見でした。それが、桜の寄生する杉の幹の内部に空洞化が進み、桜に栄養分が行き届かなくなったため、枯れてしまったとの報道に、もう一つの「やどりぎ」に思いを馳せました。

それは宿り木桜にちなんで名付けられた「やどりぎ短歌会」です。伊勢で七十年前に河崎五十によって結成された短歌の会で、毎月会報誌を出されてきました。それが宿り木桜の命運と時を同じくして、この三月で終刊になりました。

「命あるものは滅ぶ、(略)わが「やどりぎ」もまた、誇り高く歌壇を去りたい。そして、倒木更新の譬えの通り小さな芽生えを持ちたいと思う」

代表の歌人、喜多さかえさんの終刊に寄せたことばです。喜多さんは父親から引きついだ短歌の会を長年引っ張ってきた方、さまざまな思いが去就されたことでしょう。私も新たな芽生えを待ちたいと願うばかりです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『暮らしの道具展』

県内外の作家さんや職人さんによって作られた花器や弁当箱、重箱など、300種類以上のさまざまな道具を展示します。

陶器や木、鉄、ステンレス、布などを使った個性的な作品をご覧ください。

と き／4月8日(木)～21日(水) 9:30～17:30

ところ／赤福別店舗

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴茶屋

○節気菓子

はないかだ

花筏

川面に舞い降りた桜が、岸辺に着かず離れず筏のように浮かび、流れにまかせて漂い続ける。

古人も読んだその風景。

粒餡を包んだ求肥に桜の姿をとどめて、花のなごりに思いをこめました。

じんぐう

神宮つつじ

神宮にもつつじが咲く頃となりました。山芋あんのきんとんで粒あんを包み、木々の緑と赤いつつじが見せる鮮やかな色彩の対照を表現しました。

こちよう

胡蝶の舞

神宮では、神恩への感謝と国民の平和を祈念するため、毎年四月、春の神楽祭が行われます。

古式ゆかしく演じられる「胡蝶」の舞の装束を、白あんを包んだ羊羹で表現しました。

五十鈴塾

○『漢字の旅～草・春・生』

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古い結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。

私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。

今回、注目するのは、「草・春・生」。

いち早く春を知らせる植物は草です。草は強い生命力と深い友情の象徴であることを、白楽天の詩「古原草」から教えてくれています。

白楽天のエピソードを交えて、その代表作と「草・春・生」の甲骨文字を楽しみましょう。

そして甲骨文字の書き方も教えていただきます。

と き／4月13日(火) 13:30～15:00

講師／高潤生(書道篆刻家・現代印作作家)

参加費／一般1,350円 会員850円

場所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251